

変わるものづくりの起爆剤 『3Dプリンター』 ～その国際動向を探る～

概要

いま脚光を浴びている3Dプリンターは、デジタル設計図をもとに、樹脂などを積み重ねて立体物を作ることができます。金型などを使わず多品種少量生産に最適で、開発期間を大幅に短縮できるものです。自動車、自動車部品、医療から装飾品加工など幅広い用途に活用されています。米国は大統領の一般演説で戦略分野に位置づけているほどです。その国際動向をご紹介します。

日時

2013年 8月29日(木) 19:00-20:30

場所

サテライトキャンパスひろしま

講師

中山 力 日経ものづくり 編集部記者 (日経BP社)

申込方法

県立広島大学のホームページから「参加申込書」をダウンロードし所定事項を記入の上、電子メールに添付してお送りいただくか、FAXまたは郵便でお送りください。お持ちいただいたものも受け付けます。

ホームページURL: <http://www.pu-hiroshima.ac.jp/site/satellite/3dprinter.html>

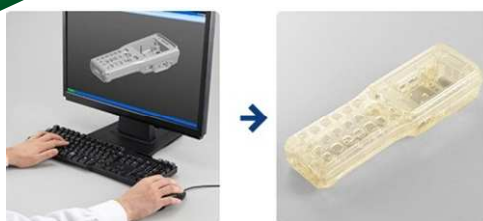
紹介

3Dプリンターとは、3次元CADソフト等で作成した3次元データを立体に造形するプリンターの総称。データを入力すれば、紙への印刷と同様に、樹脂や金属を何層にも塗り重ね、立体的な製品をつくりだせる。



(3Dプリンターのイメージ)

作品例



産業用の金型の原型となる高精細なものから、簡単なフィギュアまで、材料は石膏、樹脂、金属、複合材等様々な素材での作成ができるようになっている。

地図



中山力氏は、早い段階から3Dプリンターに注目し、国際的な動向をウォッチ、日経ものづくりに多くの記事を發表されています。その最新動向をプレゼンテーションしていただきます。

「日経ものづくり」のホームページはこちら → <http://techon.nikkeibp.co.jp/Monozukuri/>